

NEWS RELEASE

報道関係者各位

2026年6月21日(月)
キョードーメディアス

もう見られない、最後！！『blast ブラスト！』オリジナル版ファイナル

<キャストインタビュー到着>

“音爆のサーカス” その感動を体感できるラストチャンス！！

2003年に日本に初上陸して好評を博し、以来さまざまなシリーズ作品が上演されてきた『blast ブラスト！』。そのオリジナル版が今年の夏のツアーでの上演でファイナルを迎えることとなった。石川直、米所裕夢、渋谷華暖、テオ・ガスリー、ジェリエル・ヴァスケスの5人が、神技の演奏・パフォーマンスを魅せる“音爆のサーカス”への意気込みを語り合った。



――『blast ブラスト！』オリジナル版のファイナル公演となります。

石川 2000年に入団し、人生の半分以上の年月、進化し続けるこのショーと共に歩んできました。作品に関わった仲間たちからも大きな刺激を受け、共に過ごした時間の中でいろいろ学んできて、自分が今の自分である、そのきっかけになったショーだなと思います。ファイナルを迎えるということで本当に感慨深いものがあり、とにかく最高の作品に仕上げたいと臨みたいと思っています。

米所 中学生のときにオリジナル版に出会い、2011年に入団して出演したのもオリジナル版のツアー公演。それから15年、シリーズの他の作品も経験し、2年前にオリジナル版への出演へのお話をいただいたとき、またできるという喜びでめちゃくちゃうれしくて。今回終わるといのは新しいフェーズに進むためだととらえています。ファイナル公演、思いっきり爆発的な『blast ブラスト！』をお届けしたいと思っています。

渋谷 10歳のとき初めて『blast ブラスト！』を観て出たい！と思い、以来15年、人生の半分以上を『blast ブラスト！』に注ぎ込んできました。ファンとして観ていたのが、前回のツアーで出演できて、夢って本当に叶うんだなと自分に拍手を送りたい気分で。自分が心を動かされたものが終わりを迎えるという寂しい気持ちはありますが、四半世紀続いてきた歴史のある作品の最後、愛し続けた作品のファイナルの場に立てることを光栄に思います。

ガスリー 2007年に入団し、人生のほぼ半分を『blast ブラスト！』と一緒に歩んできて、作品との関わりが、人生で下した多くの重要な決断の根幹となってきました。ファイナル公演に臨むにあたり、『blast ブラスト！』の一員として磨いてきた才能やスキルをこれからどう活かしていくことができるんだろう、そんな思いがあります。今の自分のエネルギーと情熱をすべて注ぎ込むつもりです。

ヴァスケス 僕は2024年ツアーからの参加なのでそれほど長く関わってはいませんが、『blast ブラスト！』という作品の歴史を考えると、長年かけて進化してきたように、これからも進化し続けていくのだろうと思います。今回のファイナル公演がこれまでで最高のオリジナル版になるよう努めたいと思っています。

報道に関するお問合せ (株) キョードーメディアス TEL 03-3407-8105

うんりいん
雲林院、佐藤、山内 info@kyodomedias.com

NEWS RELEASE

――これまでの日本公演で記憶に残る思い出を教えてください。

ヴァスケス 2024年ツアーで初めて日本にきましたが、アメリカ出身の僕としてはカルチャーショックを受けました。日本文化はすばらしく、食べ物はおいしいし、人々も礼儀正しく親切で。日本に住みたいと思い、実際昨年11月から日本に住んでいますし、日本語も学んでいます。前回ツアーのある日、前の方に座っていたとある日本人観客が、舞台上のキャスト全員とコミュニケーションをとろうとしていて。自分たちも手を振り返したりして、観客とつながるという意味において非常に楽しい経験をしました。文化、言語を学び、そして人々とつながろうとする努力をするようになったという意味において、自分をパフォーマーとしてだけではなく人間として成長させてくれる作品だなと感じます。



渋谷 私は地元が福岡なので、福岡公演での観客の反応がとてうれしかったです。自分が福岡公演を観たときも非常に盛り上がっているなと感じました。前回ツアーの福岡公演は、一階席がほぼ全員知り合いじゃないかという感じで、先輩や友達から名前を呼ばれたりして。なかでも、私が楽器を始めるきっかけを作ってくれた先生が泣きながら観ているのを見て、やっと恩返しできたなとうれしくなりました。

ガスリー 僕も昨年9月から日本に住んでいて、日本文化にどっぷり浸かっています。僕と(石川)直と(米所)裕夢はそれぞれ何百回もこのショーに出演してきているから、思い出もたくさん共有しています。舞台袖に入ってしまったときのちょっとした出来事とか、過去のメンバーとちょっとしたふれあいとか。このショーに出るたび、舞台上、舞台袖でのそういった思い出を反芻しながらパフォーマンスしています。集中して受け止めて楽しんでくれる日本の観客の前でパフォーマンスできるのが一番うれしいですね。2幕、客席通路でディジリドゥを吹くときは、可能な限り子供に向けてパフォーマンスしています。ディジリドゥという楽器を見るのは初めてかもしれないから、できるだけユニークな音楽を演奏して、ユニークな経験を届けられるよう心がけています。

米所 僕は逆にお客さんの反応を見て『blast ブラスト!』がどれだけパワーをもっているのか知ることができたところがあって。勉強がいろいろな舞台を観に行くのが好きなんですが、どうしても日本人って、歓声とか拍手とか手拍子とか、今やっていいのかなみたいなのところがある。『blast ブラスト!』にはそういうとまどいがなくて、曲が終わるとドカーンみたいな反応が起きて、やっていることが伝わっているんだなというのがわかる。その答え合わせができるのが、2幕で僕が一人で二階席に行き、ソロを吹き始めてお客さん一人一人と顔を合わせるとき。アメリカ生まれの作品ですが、日本人同士のコミュニケーションなので、目をそらされたりして気まづくなっちゃうかななんて思ったりもしますが、今までそういった瞬間は一度もなくて。楽しんでもらえるものを提供しているという感覚と共に、お客さんによって僕らがそういうテンションになれている感覚もある。生まれ育った日本でそういう舞台に立てているということ、行くところ行くところ違うお客さんに出会えていることがすごく幸せですね。オリジナル版が10年ぶりに復活した2年前の公演の初日の山形公演、1曲目の「ボレロ」が終わったタイミングで背中を押すような拍手に加えて「お帰り」って言葉が飛んできて鳥肌が立ったことが印象に残っています。

石川 2003年の日本初演の前に、カンパニーが集められて、アメリカ人のカンパニーマネージャーから、日本のお客さんはアメリカのお客さんと違っておとなしく見てくれる、決して楽しんでないわけではない、そういう国民性で、表に出さないだけで楽しんでくれているから、リアクションが薄くても頑張って最後までやりきるんだよという注意喚起があったんですね。僕も日本人として、まあそうなんだよなと思って。そして迎えた初日、いつも通りBGMのサンバが流れて、会場が何だかにぎわっているなという感じがかった。アナウンスメントが入って客電が落ち、サンバが強くなってからフェードアウトして、僕の叩く「ボレロ」が入っていくんですけども、客電が落ち始めたところからうわあって客席が沸き始めて、サンバが聞こえなくなって、入るタイミングに困って。今までアメリカでもこんなことなかったのに、ものすごい盛り上がり方だな、話が違うな(笑)といううれしい誤算がありました。

しかも、休憩時にはロビー・パフォーマンス、僕らが出て行って椅子やバケツを叩くシーンがあるんですが、オーチャードホールのロビーに出ていこうとしたら、通路がもうラッシュアワーの山手線状態で、さわられるわ、服を引っ張られるわ、アイドル、ビートルズになったかのような感じで、翌日か



報道に関するお問合せ (株) キョードーメディアス TEL 03-3407-8105

雲林院、佐藤、山内 info@kyodomedias.com

NEWS RELEASE

ら演奏場所、変わったぐらいで。スーパースターのように待ち望まれたカンパニーなんだということを感じた、本当に忘れられない瞬間ですね。そこから『blast ブラスト!』の快進撃が始まった。アメリカでもヨーロッパでもなかったようなリアクションで、日本のお客様と『blast ブラスト!』との相性を感じました。舞台作品というより体験、一緒に楽しむパーティーのようなところがある、それがこのショーの特別なところなんじゃないかなと思います。

――ご自身の見せ場を教えてください。

渋谷 2幕のオレンジの「ランド・オブ・メイク・ビリーブ」が、子供のころも今も変わらず一番好きな場面です。客席通路に私たちキャストが降りてお客さんと一緒に楽しむシーンで、子供のとき、隣で楽器を吹いてくれるキャストとふれあえるのがすごくうれしくて。だから、キャストとしてもやっぱり子供のそばに行きたくなる。子供ってすごく素直な反応をするじゃないですか。それが私もうれしいし、バトンタッチになっているといいなという気持ちでやっています。

米所 いろんな楽器でいろんなシーンをらせていただいています、1幕の「ロス」のソロを今回も担当します。『blast ブラスト!』のテーマは「Emotional Journey (エモーショナル・ジャーニー)」、感情の旅で、演奏する曲に合う色、曲によって動く感情に対してイメージされる色を舞台上で展開していくんですが、「ロス」は、誰かを亡くしたとか、会いたいとか、そんなニュアンスの悲しい楽曲なんです。音楽は目に見えないものを表現することが多いですが、楽しいという感情は表現しやすい中で、悲しみの表現については毎回リハーサル中に考えるところがあって。最初にらせていただけてから15年経ち、いろんな経験を自分自身してきたので、今までと違った形でお届けできるんじゃないかなと思っています。

ヴァスケス 1幕ラストのブラックの場面ですね。ここで演奏されるサミュエル・バーバーの「メディア」はマーチングで非常に有名な曲ですが、実は復讐のストーリーがあって、ホルンとバリトンのデュエットは物語における葛藤と関連しています。その後のドラム・バトルで視覚的に表現されていることもこの復讐の物語と関連しているので、事前にちょっと調べていただくとさらに深く感じられるようになるかもしれません。

ガスリー ショーの終盤の「マラゲーニャ」で相方のトランペット奏者と即興演奏を交わすことができるのがいつも楽しみです。日によって違う音楽を届けられる、しかもクライマックスに向かって自分たちの気持ちもどんどん上がっていき、全員の気持ちが乗っている状態なので、お客さんにもきっと楽しんでいただきたいと思います。

石川 見どころばかりの作品ですが、一番は「メディア」ですね。そして、復讐や苦悩、ダークな感じがあふれたこの曲の後に、休憩時のロビー・パフォーマンスがある。僕らパーカッション・セクションが椅子やバケツを叩くコミカルなパフォーマンスを観客の皆さんの目の前で行なう。その、非現実から現実に切り替わるところもおもしろさの一つかなと。作品に没入するところから、一緒に楽しむ、体感型に切り替わるというのかな、そういう感覚の幅の広さがある。パフォーマンスを間近で見られるというのも、普通の演劇作品やコンサートにはなかなかない、『blast ブラスト!』ならではの特別な体験だと思います。

――さまざまな色と感情が展開される“エモーショナル・ジャーニー”である『blast ブラスト!』の中で、ご自身の感情、気持ちにもとりわけマッチしていると思うシーンを教えてください。

米所 僕は、「ロス」の淡い青的な場面が気持ちに合っている、スーツと落ち着いた状態でいられるなと感じますね。

渋谷 グリーンが一番、私の心とお客さんとがつながるシーンかなと思います。金管楽器セクションで一列に並び、クレッシェンドして前に進むとき、お客さんをざっと見られるんです。泣いているお客さんとかもいらっちゃって、私たちがこめられている思いがお客さんに伝わっているんだろうなというところが、私たちにも伝わってくるんです。



NEWS RELEASE

ヴァスケス 「レモンテック」の場面は色でいうとイエローなんですけど、照明が点滅したりするのでいろいろな色があるんです。そして、ヴィジュアル・アンサンブルが舞台袖から投げられたさまざまな手具もキャッチしたりする。暗闇の中、棒の中に細いサイリウムが入っている手具もキャッチしたりして、ほとんどミスがない。非常にプロフェッショナルだなと感じさせる場面で、お客さんも観ていて楽しいと思います。



ガスリー 「エブリバディ・ラブズ・ザ・ブルース」のブルーの場面が最高ですね。照明もいい感じに雰囲気盛り上げてくれて、我々はクールで洗練された、自信に満ちた態度で演奏します。トランペット奏者が自分の演奏にとっても満足していて、もちろん演技上ではあるけれども、演奏を止められない状態になってしまう。みんなノリノリにスウィングして楽しくやっているの、注目してほしい場面です。



石川 ショーをしめくくるレッドの「マラゲーニャ」の場面ですね。僕自身、約2時間のショーをやってきて、最後に思いっきり弾けられる瞬間なんです。前半はしっとりゆったり始まるんですが、途中から激しく、情熱的に、強烈なラテンの音楽の中、金管楽器セクションが舞台上を走り回る。我々パーカッション・セクションはうねりのようなラテンのグルーブを作りだす。そして、赤い衣装をまとったヴィジュアル・アンサンブルが、赤い旗や赤いライフルを投げてキャッチする。みんなが目まぐるしく走り回って、まさにレッド、ファイヤーみたいな感じですね。僕も叫びながら叩いているときもあるくらいで、最後まで演じ切る我々のエネルギーも最大限の火力が出る場面だと思います。



取材・文＝藤本真由（舞台評論家）写真＝©キョードー東京

●東京・関東「blastシート」特典ウォームアップ見学

「blastシート」購入者の方に、ウォームアップ見学の特典がつきます！

ステージ間近の最前方エリアが確保された超限定の特別席「blastシート」。金管楽器、打楽器の迫力ある演奏とカラーガードのダンスパフォーマンスをダイレクトに体感でき、キャストの熱気を最前線で味わえます。

本番・開場時間前のウォームアップを特別に見学できます（東京・関東の5会場のみ）

※すでにblastシートチケット保持者の方も対象になります。

詳細は公式サイト、キョードー東京公演ページをご参照ください

https://blast-tour.jp/schedule/13_tokyo.html

<https://tickets.kyodotokyo.com/blast/>

●東京S席グループ割情報

<東京公演・S席グループ割キャンペーン>

販売期間：現在販売中～6/28(日)23:59 まで

割引価格：最大23,400円お得！

対象公演：全9公演

- ・8/9(日) 11:00 開演
- ・8/9(日) 15:30 開演
- ・8/11(火・祝) 11:00 開演
- ・8/11(火・祝) 15:30 開演
- ・8/12(水) 14:00 開演
- ・8/14(金) 14:00 開演
- ・8/15(土) 17:00 開演
- ・8/16(日) 11:00 開演
- ・8/16(日) 15:30 開演

詳細はキョードー東京公演ページをご参照ください <https://tickets.kyodotokyo.com/blast/>

枚数	通常価格	グループ割価格
S席 2枚	27,800円	3,800円お得！ (一人あたり1,900円お得)
S席 3枚	41,700円	7,200円お得！ (一人あたり2,400円お得)
S席 4枚	55,600円	11,600円お得！ (一人あたり2,900円お得)
S席 5枚	69,500円	17,000円お得！ (一人あたり3,400円お得)
S席 6枚	83,400円	23,400円お得！ (一人あたり3,900円お得)

NEWS RELEASE

●公演概要

日時・会場：

東京公演 2026年8月4日(火)～8月16日(日) 全18公演 会場：東急シアターオーブ(渋谷ヒカリエ11階)

茨城公演 2026年7月29日(水) 18:30開演/17:45開場 会場：水戸市民会館 グロービスホール(大ホール)

千葉公演 2026年7月30日(木) 18:30開演/17:45開場 会場：市川市文化会館 大ホール

埼玉公演 2026年7月31日(金) 18:30開演/17:45開場 会場：大宮ソニックシティ 大ホール

栃木公演 2026年8月1日(土) 16:30開演/15:45開場 会場：宇都宮市文化会館 大ホール

料金(税込・全席指定)：S席 13,900円 / A席 10,900円 / B席 8,900円 / blastシート 16,900円(ステージから4列目以内)

プレイガイド：

キョードー東京 <https://tickets.kyodotokyo.com/blast/>

フジテレビダイレクト <https://fujitvdirect.jp/>

チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/blast/> [Pコード：539-138]

オンラインチケット MY Bunkamura <https://mybun.jp/blast> (東京公演)

Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999 (オペレーター対応 10:00-15:00) (東京公演)

東急シアターオーブチケットカウンター (渋谷ヒカリエ2階 11:00-18:00) (東京公演)

イープラス <https://eplus.jp/blast/>

ローソン <https://l-tike.com/blast/> [Lコード：東京 36190、茨城・千葉・埼玉・栃木 36131]

アソビュー <https://kyodotokyo.my.urakata.app/channels/32dbd11f-a8b3-48d7-80e2-939d42da211a/products?salesProductTagCode=tp0uirjcrj>

楽天トラベル観光体験 <https://experiences.travel.rakuten.co.jp/experiences/62527>

上演時間：2時間予定(休憩含む)

主催・企画製作：フジテレビジョン／キョードー東京

後援：アメリカ大使館

協力：ヤマハミュージックジャパン

問い合わせ先：キョードー東京 0570-550-799 (平日 11:00～18:00、土日祝 10:00～18:00)

<ツアースケジュール>

2026年7月25日(土)～8月30日(日) 全14会場 38公演

<https://blast-tour.jp/schedule.html>

7月25日(土)13:00	[山形] シェルターなんようホール
7月26日(日)18:00	[宮城] 東京エレクトロンホール宮城
7月29日(水)18:30	[茨城] 水戸市民会館
7月30日(木)18:30	[千葉] 市川市文化会館
7月31日(金)18:30	[埼玉] 大宮ソニックシティ
8月1日(土)16:30	[栃木] 宇都宮市文化会館
8月2日(日)16:30	[長野] ホクト文化ホール
8月4日(火)～16日(日)	[東京] 東急シアターオーブ
8月19日(水)18:30	[広島] 広島文化学園 HBG ホール
8月20日(木)18:30	[熊本] 熊本城ホール
8月21日(金)18:30・8月22日(土)11:00/15:30	[福岡] 福岡サンパレス
8月24日(月)18:30・8月25日(火)13:00	[愛知] Niterra 日本特殊陶業市民会館
8月26日(水)18:30	[静岡] 浜松アクトシティ
8月28日(金)18:30・8月29日(土)12:30/17:00・8月30日(日)11:00/15:30	[大阪] オリックス劇場